

医学英語Ⅲ

科目責任者 矢澤卓也

学年・学期 3学年・1学期

I. 前文

これからの医療に携わる医学部生の皆さんには、①臨床や研究に必要な最新知識を得るための文献の読解力、②症例報告や研究成果発表のための論文を執筆する能力、③国際学会等で発表・討論できる力、④外国人患者の診療や海外での医療活動に必要なコミュニケーション力や診療録を記載する力、などの英語力が必要となります。また、感染症のパンデミック等の緊急時には英語で発信される最新情報を膨大な情報群から素早く正確に取捨選択することが必要となり、この様な力は①の読解力無しに発揮することはできません。

医学英語Ⅲでは特に上記①の読解力の向上に力点を置いて学習し、②～④についての基礎的学力を養成することを目標にしています。

本科目を通して、患者やその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師として活躍できる英語・医学英語活用能力を学修することが期待されます。

試験は講義内容を咀嚼して理解していれば解答できる問題を出題します。

II. 担当教員

准教授	稲葉未知世	(教育支援センター 医史学研究室)
准教授	小嶋英史	(先端医科学研究センター 生体防御研究部門)
准教授	阿部 涉	(基本医学)
講師	矢澤華子	(病理学)
講師	石川知弘	(微生物学)
講師	布矢純一	(微生物学)
助教	佐藤元康	(生化学)
助教	柏木維人	(病理学)
助教	石井 順	(病理学)
講師	William G. Hassett	(基本医学 語学・人文教育部門)
特任教授	竹内高明	(基本医学 語学・人文教育部門)
教授	矢澤卓也	(病理学)

III. 一般学習目標

英語の医学文献を読解できる能力を養成する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 英語の医学用語の意味を正確に説明できる。
- 2) 英語の医学文献の概要を説明できる。
- 3) 医学領域の文章を英語で記載できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	3	月	4	(医学) 英語への招待	竹内 高 明 矢澤 卓 也	1
2		10	月	4	Medical English III Text : Introducing Medical Terminology	稲葉 未知世 小嶋 史 阿部 涉 矢澤 子 石川 弘 布矢 一 佐藤 康 柏木 人 石井 順 矢澤 也	1
3		17	月	4	Medical English III Text : Diabetes Mellitus	稲葉 未知世 小嶋 史 阿部 涉 矢澤 子 石川 弘 布矢 一 佐藤 康 柏木 人 石井 順 矢澤 也	1
4		24	月	4	Medical English III Text : Pneumonia	稲葉 未知世 小嶋 史 阿部 涉 矢澤 子 石川 弘 布矢 一 佐藤 康 柏木 人 石井 順 矢澤 也	1
5	5	1	月	4	Medical English III Text : Cerebrovascular Disease	稲葉 未知世 小嶋 史 阿部 涉 矢澤 子 石川 弘 布矢 一 佐藤 康 柏木 人 石井 順 矢澤 也	1
6		8	月	4	Medical English III Text : Human Immunodeficiency Virus	稲葉 未知世 小嶋 史 阿部 涉 矢澤 子 石川 弘 布矢 一 佐藤 康 柏木 人 石井 順 矢澤 也	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
7	5	15	月	4	Medical English III Text : Poisoning	稲葉未知世 小嶋部英史 阿澤部華子 矢川純一 石布藤元 佐藤維康 柏木井順 石澤卓也 矢澤卓	1
8		22	月	4	Medical English III Text : Osteoporosis	稲葉未知世 小嶋部英史 阿澤部華子 矢川純一 石布藤元 佐藤維康 柏木井順 石澤卓也 矢澤卓	1
9		29	月	4	Medical English III Text : Myocardial Infarction	稲葉未知世 小嶋部英史 阿澤部華子 矢川純一 石布藤元 佐藤維康 柏木井順 石澤卓也 矢澤卓	1
10	6	5	月	4	Medical English III Text : Hypotension	稲葉未知世 小嶋部英史 阿澤部華子 矢川純一 石布藤元 佐藤維康 柏木井順 石澤卓也 矢澤卓	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

受講態度，小テスト，記述試験成績を総合的に評価します。

VII. 教科書・参考書・A V 資料

- 1) 教科書：Medical English III Text（編集：William Hassett, Abid Hamid, Iasynok Olga, Takaaki Takeuchi）
- 2) 参考図書：Stedman's Medical Dictionary
Dorland's Illustrated Medical Dictionary
日本医学会 医学用語辞典
日本医学英語検定試験 3・4級教本

VIII. 質問への対応方法

講義時間中に各担当教員に直接質問するか，科目責任者（tkyazawa@dokkyomed.ac.jp）にアポイントをとってから質問に来ること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

英文中にはKeywordsが含まれているので、講義中にKeywordsの意味や使い方に慣れ親しむようにする。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：各UnitのKeywordsについて、事前動画を視聴し、調べておく。また、英文を音読し、書かれている内容について理解しておく。Keywordsについては、講義の始めに小テストを行います。（30分）

事後学習：講義の復習を行うとともに、授業で扱った疾患について英語で書かれている論文を検索し熟読することにより、英文に慣れ親しむ。（30分）

XII. コアカリ記号・番号

A-2, A-4, A-8